

仙台市科学館運営の
基本理念（基本方針）の見直しについて
（答 申）

平成 23 年 11 月

仙台市科学館協議会

目次

ページ

1	はじめに	1
	(1)現在の基本理念, 基本方針の策定の経緯	
	(2)現科学館での活動	
	(3)科学技術の進歩と社会状況の変化	
	(4)基本理念・基本方針の見直しの必要性と方向性	
2	基本理念	3
3	基本方針	4
4	おわりに	5

資料

1	基本理念（現行）	6
2	基本方針（現行）	8

1 はじめに

(1) 現在の基本理念, 基本方針の策定の経緯

仙台市科学館は昭和27年4月, 学校教育における理科教育の充実を図るために, 当時錦町にあったレジャーセンター内にサイエンスルームとして設置された。当時の事業は科学の原理にふれる実験学習を中心としたもので, その精神は今日まで50有余年にわたって引き継がれており, この種の学習の先鞭をつけたものとして全国的にも高い評価を受けている。その後, 昭和43年5月には新たに展示室を併設した施設が旧長銀ビル内に設置され, 仙台市科学館としての新たな一歩を踏み出した。さらに, 平成2年9月には, 市制施行100周年記念事業の一環として, 後世に誇りうる規模の科学館建設を目指すという方針のもと現在地に新築移転した。現行の基本理念と基本方針は, 現在の科学館への新築移転の際の基本構想の中で示されたものである。

(2) 現科学館での活動

仙台市科学館は, この理念と方針のもとに今日まで, 学校教育・展示教育・社会教育を通して広く市民に親しまれ, 市民文化向上の一翼を担ってきた。特に, 学校教育分野では物理・化学・生物・地学の専用実験室を設け, 市内の全ての中学生を対象にした実験学習や展示学習に力を入れてきた。また, 幼児から高齢者まで, 全ての市民が自由に科学を体験できるよう「ハンズオン展示」を充実させるとともに, ボランティア活動や友の会活動の支援など社会教育活動にも力を入れてきた。

現在, 仙台市科学館には仙台市内はもちろんのこと, 東北各地から多数の来館者があり, この地域の科学の啓発と普及の面で大きな役割を担っている。

(3) 科学技術の進歩と社会状況の変化

一方, 近年の科学技術の進歩と社会状況の変化には著しいものがあり, それに伴い市民の意識やニーズにも大きな変化が見られている。特に, インターネット等の情報通信技術の普及に伴って情報化社会が急速に進展しており, 情報教育の重要性がクローズアップされている。また, 環境分野でも市民の関心は以前の地域的な公害問題から地球環境問題へ, さらには自然生態系や生物種の保全(生物多様性)にまで広がりを見せている。そして, これらを反映して, 科学館にも多岐にわたる科学相談が寄せられており, また, 標本等の寄託に関する問い合わせも増えている。このような科学館に対する市民の期待に応えて行くためには, これまで以上に科学館における学芸業務の質的な向上が必要である。

学校教育分野でも、児童生徒の理科離れ対策として、小学校における効果的な授業構築のための支援の要請、幼児が安心して科学と触れ合える場の提供なども科学館に期待されている。さらに、平成20年改訂の新学習指導要領では学校と博物館や科学学習センターとの連携が謳われており、理科教育における科学館の役割について大きな期待が寄せられている。

科学館における連携事業については、これまでも様々な形で専門機関との取り組みがなされてきたが、最近では SMMA 事業(仙台宮城ミュージアムアライアンス)に代表されるように複数の館が連携し合いながら単独館事業では出せない新たな魅力を生み出す試みが行われている。本市のミュージアム都市構想の進展の中で、今後ともこの種の取り組みが一層注目を集めていくものと思われる。

(4) 基本理念・基本方針の見直しの必要性と方向性

以上のように、現行の基本理念と基本方針は制定後すでに20年以上が経過しており、制定当時と比べ社会状況や市民のニーズには大きな変化が認められる。特に、平成23年3月の東日本大震災は東北地方全体に甚大な被害をもたらしたが、さらに、福島原発事故を通じて科学技術に対する信頼が大きく揺らぐこととなった。しかし、この大震災からの復興も科学技術を抜きにして語れるものではなく、科学館も科学技術の啓発と理科教育の実践を通じて、地域の復興に一定の役割を果たしていくことが求められる。

当協議会は、平成23年2月19日、仙台市科学館運営の基本理念と基本方針の見直しについて諮問を受けたが、これらの社会状況の大きな変化を踏まえつつ、検討を加える必要があると判断した。

審議に際しては、まず現在の基本理念、基本方針を踏まえつつ、その形式を整え、より広く一般市民に分かりやすいものとなるよう見直すとともに、仙台市科学館の全国に誇るべき特徴ともなっている学校教育との連携事業や参加体験型展示(ハンズオン展示)についてはこれまでのありかたを踏襲することとした。また、社会状況の変化に対応していくために、科学系博物館としての機能の強化、生活系展示の充実、幼児教育や生涯学習の視点の強化などが必要であると判断した。

以上の観点に基づいて、本協議会としての協議を重ね、現行の基本理念、及び基本方針を以下の「2. 基本理念」、および「3. 基本方針」に掲げるとおり見直すことが適当であると判断されたので、ここに答申する。

この答申を契機に、仙台市科学館がさらに大きく発展し、市民の期待に十分に答えられるような事業展開が図られることを期待する。

2 基本理念

前文

仙台市科学館はこれまで、社会教育施設としての充実を図るとともに、学校教育とも積極的に連携を深めながら、東北の中核都市にふさわしい科学系博物館を目指し機能の強化に努めてきました。今後とも、創造性を培うための研修の場・学習の場・憩いの場として市民の多様なニーズに応えられるよう次に掲げる機能の充実に努め、高度な機能を備えた総合的で、かつ、開かれた科学館をめざします。

- (1) 理工系・自然史系・生活系を中心とし、博物館としての機能を充実させた科学館
- (2) 参加体験型の展示を通して科学の原理法則にふれることができ、創造力をよび起こすことのできる科学館
- (3) 郷土の自然の大切さを知り、環境を保全することの重要性を学ぶことのできる科学館
- (4) 児童生徒への効果的な理科教育を実践し、教育現場からの支援の要請にも的確に応えられる科学館
- (5) 幼児から高齢者までの生涯にわたる科学の学習を支援し、広く市民に学ぶ機会を提供できる科学館

3 基本方針

前文

基本理念の実現をめざし、以下に掲げる基本方針のもとに、事業の質の確保と機能の充実に十分に配慮しながら、効率的な事業運営を行います。

- (1) 「自然を理解し、生活を支えていくための科学」の役割を正しく伝えるため、幼児から高齢者まで多くの市民の方々に親しんでいただけるよう、わかりやすい展示や企画を行います。
- (2) 地域の貴重な財産である標本や資料の収集・保管に努め、調査研究を通じて科学的事実を体系化することによって、知識として社会へ還元できるよう努めます。また、このような学芸機能を強化するために、大学や研究機関との連携を深めるとともに、計画的な人材育成に努めます。
- (3) 展示内容については、時代の要請に合わせて常に見直しを行い、「見て・触れて・ためす」参加体験型展示の充実に努めます。来館者が展示のコンセプトを驚きと感動を持って受け止め、実験や観察を通して科学により親しみをもってもらえるようホスピタリティの向上に努めます。
- (4) 最新の科学技術情報や科学館の事業内容をわかりやすく情報発信できるよう努めます。また、子どもたちの様々な疑問に答えられるよう職員の人材育成を図ります。
- (5) 郷土仙台の豊かな自然環境を活かし、自然観察会などの開催を通じて自然と触れ合い、自然から学ぶ機会を提供します。
- (6) 子どもたちの興味や関心を高めるための教材開発や授業開発を行い、実証的・実験的な理科教育を行う場となるよう努めます。また、高い専門性が要求される理科の特質を考慮し、理科教員の研修の場として、また、資料センターとして教育現場の期待に応えられるよう努めます。

- (7) 生涯教育の視点に立ち、市民の多様なニーズに応え、広く利用者に親しまれる運営を行います。特に、児童教育を通して親の知的好奇心へも対応できるよう努めます。また、知の循環型社会実現のために市民の持つ潜在力がボランティア活動などを通じて社会全体に還元できるような場の提供を目指します。
- (8) ミュージアム都市仙台を支える基盤のひとつとして、地域社会、社会教育施設、学校、博物館、大学や専門機関、企業など、社会の諸部門と連携し相互に高め合い、成長し続ける（進化する）ことで社会的要請に応えます。
- (9) 科学館協議会の助言のもと、科学教育の場として、教育的配慮と科学的専門性に裏づけられた独自性を持った特色のある活動を進めます。

4 おわりに

仙台市では「学都仙台」の伝統のもとに、あらたに「未来を育み創造する学びの都」の実現に向けた取り組みを進めている。市民は科学館に対して、科学に親しみ、自ら進んで学ぶことのできる多様なサービスの提供を期待している。さらに、事業の質の確保と機能の充実に十分に配慮しながら、効率的な事業運営を行うことを求めている。

本協議会はこの新基本理念のもとに制定された新基本方針を着実に実行することにより、東北の中核都市にふさわしい高度な機能を備えた総合的であつ、魅力溢れる科学館の実現を期待する。

資料

1 基本理念（現行）

前文

仙台市科学館は、これまで社会教育・学校教育・展示教育の諸活動を通して、東北地方における科学教育の指導的役割を果たしてきた。

新科学館は、その基盤に立って、幼児から高齢者までの生涯にわたる学習を支援し、創造性を培うための研修の場・学習の場・憩いの場として市民の多様なニーズに応えるとともに、学校教育との積極的な連動を図り、東北の中核都市にふさわしい高度な機能を備えた総合的で、かつ、開かれた科学館をめざすものである。

（1）理工系・自然史系を中心とする科学館

科学技術に関する知識の普及・啓発を目的とし、市民が理工系・自然史系全般にわたって自然科学の真髄を追及することができる博物館としての機能をもった科学館とする。

（2）事象の内に潜む原理法則にふれることのできる科学教育の場

展示を通して科学の原理法則にふれ、科学の本質（合理性・再現性・普遍性）を認識し推理力・判断力・応用力を養い、楽しみながら科学する喜びを体験できる科学教育の場とする。

（3）科学技術に対する創造力をよび起こす場

市民が、科学技術発展の歴史や最先端のさまざまな成果に接し、かつ、そこにある科学の基本的な原理を理解し、人間との係わりに対する関心を高め、これによって創造の意思を呼び起こす場とする。

（4）郷土仙台の自然観察の拠点

市民が心のよりどころにしている広瀬川・青葉山・台原森林公園等の豊かな自然を活用し、自然から学びとる態度を養う場とする。

台原森林公園は、市街地にあっては自然に恵まれた価値ある空間である。この自然環境の中に科学館を設置することにより、市民の科学学習の場（生態系の観察・自然科学の調査研究等の拠点）としての価値をいっそう高めることになり、科学館とそれととりまく自然が市民生活の中により身近なものとして定着し、活用されることが期待できる。

(5) 生態系を理解し自然環境の保全を考える場

人間の豊かな生活文化は、優れた自然環境に支えられており、われわれはこの自然を大切に、後世に伝える責務がある。

新科学館は、仙台の自然を具体例とした展示や野外観察等の活動により、生態系を正しく理解し、自然環境を保全する意欲をもった市民の育成に努める場とする。

(6) 児童生徒を対象にした理科教育（実験・観察）の場

次代を担う子ども達に科学の本質を認識させるためには、学校における理科教育の充実とともに、子ども達が多様な経験を積むことが必要である。

新科学館は、サイエンスルーム開設以来の精神を受け継ぎ、よりいっそう学校教育と密接に連動して、東北大学をはじめ各種研究機関の指導助言を受け、実証的・実験的な理科教育を行う場とする。

(7) 教師のための理科教育研修の場

理科は内容が多岐にわたることや、教材・資料の作製・入手・計器・器具類の取り扱いなどに専門的な知識と技能が必要であり、教師の絶えざる研修が特に要求される専門性の高い教科である。

開設以来これまで、学校現場の教師の求めにより理科教育の研修の場として、また、資料センターとしての役割を果たしてきた。新科学館は、これまでの機能を充実して教師の求めに十分に応えることができる施設とする。

- (1) 生涯教育の視点に立ち, 社会教育と学校教育を積極的に連動させながら, 市民の多様なニーズに応え, 広く利用者に親しまれる運営を行う。
- (2) サイエンスルーム開設以来, 東北大学教授を中心に構成される運営委員会が館運営の基軸となってきたが, それを受け継ぎ, 教育的配慮と科学的専門性に裏づけられた活動をすすめる。
- (3) 日に新たな最新の科学技術や科学的知識に関する資料や情報を積極的に提供できるように努める。
- (4) 恵まれた自然の立地環境を十分に生かし, 本館を核として自然観察園や岩石園等のフィールドを活用しながら公園との一体的な施設運営を行う。
- (5) 国際都市・学園都市及び政令指定都市をめざす仙台市の将来に対応できる質の高い活動内容を確保するように努め, 東北の中核都市にふさわしい風格と高度機能をそなえた総合的な科学館づくりを行う。